

現代経営学演習

担当: 畠田 敬

I. 演習の目的

現代経営学演習は、専門職学位論文の作成を目的とした、演習形式の研究指導科目です。

通常の修士論文では、学界に対する貢献や学術的な厳密性が求められます。専門職学位論文では、それらに加えて、経営実務に対するインプリケーションが求められます。すなわち、経営学の論文であると同時に、経営幹部、実務家、同業者、産業界などに対する知見やメッセージを含んでいる必要があります。

このように書くと、非常に難しいことを皆さんに要求しているように思われるかもしれませんが、基本的には、次の二つの作業を適切に行うことが重要です。

- (1) 実務上の課題や研究テーマを、既存の学術的な概念や理論を用いて定式化すること
 - 取り組むべき問題を正しく捉えること
- (2) 分析手法について学び、それを自身の研究課題に応用すること
 - 適切な手順に従って、仮説検証や事例分析などを行うこと

これらは通常の修士論文でも求められる作業ですが、専門職学位論文では、研究テーマが実務的であり、対象となる社会現象も多岐にわたります。そのため、学ばなければならない範囲が広くなることがあります。一つの研究テーマに対して一つの学問分野だけを勉強すればよいのではなく、MBA で学んだ知識、さらにはそれを超える知識を総動員して、専門職学位論文を作成することが求められます。

もちろん、この作業を一人だけで進めることは容易ではありません。本演習では、少人数での授業を通じて、学生が取り組もうとしている研究課題は何か、その課題が社会や実務に対してどのような意味を持つのか、また、どのようなアプローチによって課題を明らかにしようとしているのかについて、ゼミ生と指導教員が問題意識を共有します。

そのうえで、建設的な意見交換や、アイデア・分析方法の教え合いを通じて、専門職学位論文の完成を目指します。論文は、あくまでも各自の責任において執筆し、完成させるものです。教員としては、論文完成というマラソンの「伴走者」として、皆さんの研究を支援していきたいと考えています。

Ⅱ．演習のスケジュール

1. M1 ゼミ

M1 ゼミでは、問題意識の明確化から分析計画の策定まで、研究の基礎を段階的に構築します。

演習担当者の専門分野は金融・ファイナンスですが、それらに関連するテーマに限らず、経営戦略、財務会計、管理会計、コーポレートガバナンス、マーケティングなど、幅広い研究テーマを扱います。

皆さんが抱えている問題意識や研究テーマを伺ったうえで、分析方法（定量分析・定性分析）や研究の方向性について助言を行い、M2 での本格的な分析に向けた土台をしっかりと構築したいと考えています。

9 月 12 日(土)1・2 時限

オリエンテーション

- ・ 報告資料提出期限:9 月 5 日(土)

10 月 10 日(土)1～5 時限

研究計画の紹介・インタビュー調査法

- ・ 報告資料提出期限:10 月 3 日(土)

12 月 5 日(土)1～5 時限

先行研究の整理・仮説の設定・アンケート調査法

- ・ 報告資料提出期限:11 月 29 日(日)

2月13日(土)1～5時限

データ・分析方法の確立・統計分析法

- ・ 報告資料提出期限:2月6日(土)

2. M2 ゼミ

M2 ゼミでは、研究報告と全員での議論を繰り返しながら、専門職学位論文の完成を目指します。

- ・ 4月:分析の進捗状況および分析結果の報告
- ・ 5月:分析の進捗状況および分析結果の報告
- ・ 6月:追加分析と研究全体のまとめ
- ・ 7月:論文の執筆・校正・最終確認

ちなみに、専門職大学院全体のスケジュールは以下のとおりです。

2026年 3月～4月(副指導教員の選定)

5月～6月(副指導教員へのコンタクト・説明・アドバイスもらう)

6月 MBA論文の論題提出(教務提出)

7月 卓越論文発表会(3本)(6月ごろゼミ指導教員が推薦)

8月 学位論文提出締め切り

9月 修了者発表会(ポスターセッション、合格者のみ)

秋以降加護野忠男論文賞の候補選定と選考

副指導教員については、研究テーマに合った方を選ぶことが重要です。どなたに依頼するか迷っている場合は、早めに相談してください。一緒に考えます。また、卓越論文の推薦は指導教員が行いますが、推薦に値する論文を仕上げることを全員の目標としてほしいと思っています。最後まで手を抜かず、納得のいく論文を完成させましょう。

Ⅲ. 今年度(M1)の各回の内容と目標

① 9月12日(土)ー オリエンテーション

当日は午後から M2 の研究発表会が予定されているため、M1 の演習は午前中の 1・2 時限のみ実施します。

主な内容は次のとおりです。

- 各自の自己紹介
1人5分程度で行います。PowerPoint 資料(写真付き)を作成してください。
- ゼミの運営方針および年間スケジュールの確認
- 提出物の管理方法および連絡方法の確認
- 専門職学位論文の書き方に関する説明
- データベース、参考文献および過去の専門職学位論文の探し方
- 次回のゼミ内容および課題の説明

パソコンなど、発表や作業に必要な機器は各自で準備し、持参してください。

午後からの M2 の MBA 生によるポスターセッションは、皆さんがこれから目指す専門職学位論文の具体的なイメージをつかむための貴重な機会です。研究テーマ、論文の構成、分析方法などについて、積極的に質問してください。

② 10 月 10 日(土)― 研究計画の紹介

午前・午後を通じて、各自の研究テーマについて発表してもらいます。

- 1～4 時限:各自の研究テーマの発表
- 5 時限:インタビュー調査法に関する勉強会

発表時間は、質疑応答を含めて 1 人 20 分程度を目安とします。

発表資料には、次の内容を盛り込んでください。

1. 研究テーマ(演題)
2. 問題意識および研究に取り組む動機
3. 研究内容および分析方法
4. 研究スケジュール

発表資料は、PowerPoint または Word で作成してください。また、授業に先立って、ゼミ生全員が閲覧できるように共有しておいてください。

この段階で研究計画が完全に固まっている必要はありません。むしろ、自分が何に問題を感じているのか、何を明らかにしたいのかを、他の人に分かりやすく説明できることが重要です。発表と議論を通じて、研究テーマをより明確なものにしていきましょう。

③ 12 月 5 日(土)— 先行研究の紹介

各自の研究テーマに関連する既存研究を取り上げ、その内容を紹介してもらいます。

- 1～4 時限: 既存研究の紹介
- 5 時限: アンケート調査法に関する勉強会

発表時間は、質疑応答を含めて 1 人 25 分程度を目安とします。

自身の研究テーマに近い研究論文または専門職学位論文を、少なくとも 1 本選んでください。対象とする研究は、日本語・英語、定量研究・定性研究、一般の学術論文・専門職学位論文のいずれでも構いません。

発表では、次の内容について説明してください。

1. 論文の全体構成(章立て)
2. 研究の動機およびリサーチ・クエスチョン(RQ)
3. 先行研究の整理
4. 研究アプローチおよび分析方法
5. 結論、考察および実務的提言
6. 自身の研究との対応関係、および参考にできる点

単に論文の内容を要約するだけではなく、「なぜこの研究を選んだのか」「自身の研究にどのように生かせるのか」という点を意識してください。

発表資料は、PowerPoint または Word で作成し、授業に先立ってゼミ生全員が閲覧できるように共有しておいてください。

④ 2 月 13 日(土)— 研究計画の具体化

各自の研究内容について、現時点での到達状況と今後の計画を説明してもらいます。

- 1～4 時限: 各自の研究内容の発表
- 5 時限: 統計分析法に関する勉強会

発表時間は、質疑応答を含めて 1 人 20 分程度を目安とします。

発表では、主に次の内容を確認します。

1. 論文の全体構成
2. 参考文献および先行研究の読み込み状況
3. リサーチ・クエスチョンや検証課題の具体化
4. 分析アプローチおよび使用予定のデータ
5. インタビュー調査やアンケート調査の実施予定
6. M2 に向けた研究スケジュール

発表資料は、PowerPoint または Word で作成し、授業に先立ってゼミ生全員が閲覧できるように共有しておいてください。

この回までに、M2 で「何を、どのような方法で分析するのか」を、ある程度具体的に説明できる状態にすることを目標とします。

IV. 専門職学位論文の評価基準

専門職学位論文では、主に次の点を評価します。

1. 論文の作成に、誠実かつ真摯に取り組んでいること
2. 仕事や実務上の経験から生じた問題意識に関連するテーマを設定していること
3. 現実の経営課題に対して意味のある分析結果と含意を導き出していること
4. 分析結果と含意を導くプロセスに信頼性があり、十分な説得力を備えていること

必ずしも複雑な分析手法を用いることが、良い論文につながるわけではありません。重要なのは、自身の問題意識に適した方法を選び、証拠や論理に基づいて、読み手が納得できる結論を示すことです。

V. ゼミ生に求めること

本演習では、専門職学位論文の作成が活動の中心となります。しかし、その前提として、「なぜ MBA に進学したのか」「MBA で何を学び、何を実現したいのか」ということを、常に意識するようにしてください。

1 年半という期間は、思っている以上に早く過ぎていきます。これまで演習を担当してきた経験から感じるのは、「自分は何を明らかにしたいのか」「どのような問題を解決したいのか」という問題意識が明確であり、それを他者に分かりやすく説明できる方ほど、質の高い専門職学位論文の完成につながっているということです。

研究の途中では、当初の想定どおりに進まないこともあります。そのようなときには、一つの考え方や分析方法に固執するのではなく、他のゼミ生や教員の意見にも耳を傾けながら、柔軟に研究計画を見直してください。

幅広い視点、柔軟性、フットワークの軽さ、そして他の受講生に対する誠実な姿勢が、ゼミでの時間をより有意義なものにします。各自が自身の研究を進めるだけでなく、互いの研究に関心を持ち、率直かつ建設的な意見を交換できるゼミにしたいと考えています。

皆さんと一緒に、実務と学術の双方にとって意味のある専門職学位論文を作り上げていけることを期待しています。